

## 令和7年度日臨技中部圏支部医学検査学会の開催にあたって



一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会  
代表理事会長 横地 常広

平素より、一般社団法人日本臨床衛生検査技師会（以下、日臨技と略す）の活動に対し、ご理解、ご協力をいただき心より感謝申し上げます。

本学会が、一般社団法人三重県臨床検査技師会の宇城 研悟会長の下で、メインテーマ「最前線～One step forward～」として開催されますことを会員の皆様とともに喜び申し上げます。

学会は、我々臨床検査技師の根幹である「検査データの品質保証」に向けた取り組みの一つであり、日々進歩する検査技術に対し卒後教育の一環として、医療機関などで活躍する先生方の「技術・知識」の研鑽の場でもあります。近隣で働く先輩方、同僚、後輩たちと日々抱える課題について情報共有するコミュニティの場として活用いただきたいと思います。

さて、我々を取り巻く医療環境は一層厳しさを増し、2024年度診療報酬改定後も、医業収益は改善されておらず、多くの医療機関で悪化したという調査結果が示されています。医療収益は微増にとどまる一方、物価高騰、賃金上昇が経営を圧迫し、それ以上の経費増で赤字経営に陥っています。医師会をはじめとする職能団体、日本病院団体協議会を中心に社会保障予算編成の基本的な考え方である「高齢化の伸びの範囲にとどめる」という目安対応を廃止し、物価高騰、賃金上昇に応じて適切に対応する新たな仕組みづくりの導入を訴え緊急行動が展開され、我々職能団体も賛同し活動に参加しております。

このような中、我々臨床検査技師は「医師の働き方改革」をトリガーとして進められている「タスク・シフト/シェア」を前向きにとらえ、自施設の実情に合わせて、技術革新、デジタル技術の導入に積極的に取り組み、限られた人財で、「いかに検査室の生産性を上げるか」を目指した「臨床検査DX」への取り組みが必要であり、業務の効率化による人員確保に努め、臨床検査技師が必要とされる場所で、医療スタッフから「信頼してタスクシェアできる臨床検査技師」の育成に向けた「キャリア支援」に日臨技として取り組んでまいります。

本学会は三重県技師会により、時世にあった特色ある企画と円滑な学会準備が進められ、会員の皆様への最新の情報提供、会員の皆様方の研究成果を発表する場として、ぜひ活用されることを期待しております。

最後に、本学会の盛況を記念するとともに、運営に当たりご尽力いただきました宇城 研悟学会長、別所 裕二実行委員長をはじめ、三重県臨床検査技師会の皆様にご心より感謝申し上げます。

令和7年6月吉日